

評価者	消防長	齋藤 務
-----	-----	------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	消防機能の整備・充実
目標とすべきま ちの姿	消防施設は老朽化耐震対策が実施され安定的に火災等への対応がなされています。消防救急無線はデジタル化が図られ、緊急時にも適切な情報通信が可能となっています。 市民の防火・防災意識は高く、すべての一般住宅には住宅用火災警報器が設置され、災害時の避難誘導等の減災体制は消防団、自主防災組織などとの連携が効果的に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	17.1%	平成27年度	16.7%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

お金の使い方		お金の使い方		<p><妥当性の分析></p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は57.4%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金の「足りない」、効果「不十分」の5.7%、次はお金の「使いすぎ」で効果は「ちょうどよい」の5.3%であり、市民意識では、お金と効果ともにちょうどよいという状況にあると捉えることができる。</p> <p>お金の使い方と仕事の効果両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、平成26年度・平成27年度ともに半数を超えている状況であるが更なる市民への理解が必要であると考えられる。</p>				
仕事の効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい		必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
	ちょうどよい	2.8%	1.4%		0.3%	1.1%	1.3%	0.6%
	効果不十分	4.5%	58.3%		0.7%	5.3%	57.4%	1.9%
	2.1%	0.9%	5.2%	2.7%	1.4%	5.7%		

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	14.7%	60.4%	1.9%	23.0%	100.0%
平成27年度	15.5%	59.9%	2.1%	22.5%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

平成28年度の開庁をめざし、鎌倉消防署腰越出張所の改築工事を実施していく。
職員の世代交代による経験不足を補うため各種訓練を実施する。
市民に対する防火防災意識の向上、防火管理指導及び消防法違反対象物の撲滅に取り組む。
高機能消防指令センターの適切な運用のため、効果的な維持管理を行う。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
消防-01	消防運営事業	48,977	40,448	82,889	74,237	4.3	4.3	b	B
消防-02	消防施設管理事業	14,908	27,182	18,851	31,897	0.5	0.6	b	B
消防-03	消防団運営事業	61,412	59,326	69,298	67,184	1.0	1.0	b	A
消防-04	消防施設整備事業	193,843	50,483	199,364	55,198	0.7	0.6	b	B
消防-05	警防活動事業	21,319	23,524	28,987	35,145	1.0	1.5	b	B
消防-06	救急活動事業	12,387	12,282	20,055	23,903	1.0	1.5	b	B
消防-07	消火栓管理事業	4,051	5,905	11,719	13,652	1.0	1.0	b	B
消防-08	車両購入事業	34,824	74,648	42,492	82,395	1.0	1.0	b	B
消防-09	指令活動事業	1,232,814	35,664	1,343,221	131,752	14.0	12.0	b	B

消防-10	予防活動事業	1,063	1,217	81,606	81,542	10.5	10.5	b	B
	鎌倉・大船消防署警防活動			1,571,564	1,561,460	198.0	193.0	b	

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

平成26年度に旧腰越出張所の解体工事及び基本・実施設計を実施して、平成27年度に改築工事に関する入札を行い平成28年度中の開庁を目指し工事に着手した。(消防-04)

当直中に実戦的防ぎょ訓練、図上訓練等を定期的に実施し技術及び知識の伝承を図った。(鎌倉・大船消防署警防活動)
消防出初式や消防訓練指導を実施して、市民への防火防災意識の向上を図るとともに、防火対象物の立入検査を実施し、消防法令違反対象物に対して改善指導を行った。(消防-01・10)

平成26年度に整備した高機能消防指令センターを適切かつ効果的に運用するため、職員研修及びシステム安定稼働のための維持管理を実施した。(消防-09)

【実施できなかった事業とその理由等】

地中障害物の影響により工事が中断し、工期が延長となったが当初の予定どおり平成28年度中の開庁を目指す。(消防-04)

市民意識調査の結果から、消防本部の行う取組等を広く認知してもらうとともに、防火防災意識の更なる向上を目指す。(消防-01、-10)

(4) 平成27年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

消防力の強化としては、平成26年度に構築した高機能消防指令センターの適切な維持管理及び鎌倉消防署腰越出張所の改築など、災害活動における効率性及び防災拠点の整備を進めてきた。

各課各事業については、多種多様な業務に対し限られた人員で消防の責任を果たすことができた。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

消防は、市民の生命・身体及び財産をあらゆる災害から守ることが総合的な成果と考え、今後は公共施設の再編を考慮し、活動の拠点である消防施設の維持管理等を継続して行うとともに、消防職団員の知識、技術を高めるために各種研修、訓練などを受講させ、迅速的確な現場活動の遂行を目指す。

また、市民向けの各種講習、訓練を開催して、救命率及び防火防災意識の向上を目指す。

さらに、立入検査を通じて適正な防火管理指導及び消防法令違反対象物の撲滅を継続的に実施していくなど、消防業務全般に強化を図る。

4 平成28年度の目標

腰越地区の消防力の維持のため、平成28年度中に腰越出張所の開庁を目指す。

職員による実戦的防ぎょ訓練、図上訓練等を定期的を実施し技術及び知識の伝承を図る。

消防出初式や消防訓練指導を実施して、市民への防火・防災意識の向上を図るとともに、防火対象物の立入検査を実施し、消防法令違反対象物に対して改善指導を行う。

高機能消防指令センターを適切かつ効果的に運用するため、職員研修及びシステム安定稼働のための維持管理を行う。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	消防-04	事業名	消防施設整備事業					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	腰越出張所庁舎改修の進捗状況								↗		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
老朽化した腰越出張所の改築工事を実施するため。	目標値	30.0	50.0	100.0							
	実績値	30.0	40.0								
	達成率	100.0%	80.0%								
整理番号	消防-09	事業名	指令活動事業					単位	%	指標の傾向	備考
指標の内容	円滑な指揮命令による災害活動等の達成率								↗		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31				
消防救急デジタル無線及び高機能消防指令センター構築による、出動指令体制の迅速化、システムの維持管理等を実施するため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0				
	実績値	90.0	100.0								
	達成率	90.0%	100.0%								

整理番号	消防-10	事業名	予防活動事業					単位	%	指標の傾向	⇒	備考
指標の内容	消防出初式開催による防火意識の向上・防火管理指導及び立入検査等の実施率											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
市民への防火防災意識の向上及び防火対象物の査察等を実施するため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	90.0	90.0									
	達成率	90.0%	90.0%									
整理番号		事業名	鎌倉・大船消防署警防活動					単位	%	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	若手消防職員の経験不足解消にともなう訓練等の実施											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
多数の団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り、消防業務全般の継承が急務であるため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	60.0	65.0									
	達成率	60.0%	65.0%									

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	⇒	指摘への対応、コメント等
<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した腰越出張所の改築の前段として、解体工事を実施する必要がある。 庁舎解体に伴う付近住民への説明及び家屋調査の日程調整を行う必要がある。 現場活動がスムーズに行くよう、人員の配置に配慮が必要である。 地域の消防団との連携を図り、消防団員の確保と活動しやすい環境づくりに努力されたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 腰越出張所について、平成26年度に解体工事は完了し、現在は既存地において改築工事を実施中である。 腰越出張所解体工事を実施する際、事前に近隣住民に対し工事の説明及び家屋調査の日程を調整し実行した。 人員の配置は、限られた人員のなか市民サービスに支障をきたすことのないよう配慮した。 消防団との連携に関して、署員が各種訓練や救急講習を行うなど、常備消防との連携強化を図った。また、各種イベントにおいて消防団と消防団員募集活動を行った。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・定常的な業務は滞りなく進められている。
- ・各地区に消防署の出張所が開庁されてきている。拠点の整備がすすめられている
- ・市民への消防訓練指導を率先して実施している。消防訓練に参加している職員の対応がきびんで良い。
- ・高機能消防指令センターの適切な維持管理に努めようとしている。
- ・各署所の修繕、保守点検等消防庁舎の維持管理を行った。
- ・警防活動の必要備品の整備、機器保守点検等、消防学校に職員を出向させ、技術向上を図った。活動の拠点である消防施設の維持管理等を継続して行った。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	4	↘	0	→	4			↗		
効果	○	2	△	0	—	6	⇒		—		

《課題》

- ・住宅用火災警報器の設置は大きな目標となっているが、実態も不明で指標もない。
- ・団塊世代職員の退職により、年齢層が若返り、消防業務全般の継承が急務である。技術や地域情報の伝達、継続性が問題である。
- ・消防出初式が市民の防災意識につながっているという根拠が分からない。
- ・老朽化が著しい消防庁舎の維持管理について、適切な修繕補修を行い、諸課題を整理することが求められる。
- ・市民向け各種講習、訓練は具体的に何を行っているのかが明らかになっていない。
- ・指標となっている「訓練等の実施」「検査等の実施」は何を母数としているのか。また「円滑な指揮命令による災害活動等の達成率」とはどのようなことかが明らかになっていない。
- ・腰越出張所の建替にあたっては、もう少し高台に移転することや、近隣2箇所の消防署強化による対応を検討したのか、他の機能を持たせた複合施設とすることができなかったのかが明らかになっていない。

《提言》

- ・「すべての一般住宅に火災報知器設置」が有効な手立てなのであれば、更なる設置促進を進めるべきである。
- ・若い職員への継承の達成率が65%にとどまっている要因を把握し、計画的な指導を行うべきである。
- ・消防施設機能の強化・消防職員のパワーアップに次ぐ防火・防災手段について検討し、重点的に手を打つべきである。